

大問 1 あなたは歴史総合の授業で、日本の室町時代における外交を調べることにしました。そこで、「14 世紀後半に入ると、室町幕府が開かれ安定した世の中になった。それ以降の日本の貿易はどのようなものであったのだろうか。」という問いを、まず立てました。日本と中国を中心に以下の【視点 1～4】の手順に沿って、問 1～4 に答えなさい。

東アジアの国際関係の特徴は、古くから中国の王朝を中心とする①朝貢関係がむすばれてきたことである。15 世紀初頭には②日本の室町幕府も政権の安定と貿易の利益を求めて、明と朝貢関係を結んだ。

16 世紀になると、③倭寇と呼ばれる集団が、明の取締りに逆らって密貿易を行うようになった。明は、16 世紀半ばに民間による海上貿易の禁止を緩和したが、中国の商人と日本との直接の貿易は許されなかった。そのため、④日本と中国の双方に拠点を得たポルトガル人が日中間の貿易の担い手となり、大きな利益をあげた。

【視点 1】 まずあなたは、日本と中国の間で行われた交易について調べました。

問 1 下線部①について正しいものを次の①～⑤のうちから一つ選び、**1**にマークしなさい。

- ① 周辺国の首長は中心国の王朝の権威を認めたが、支配の承認を得るまでには至らなかった。日本と中国の前例として遣隋使などがあげられる。
- ② 周辺国の首長は中心国の王朝に隷属・支配の承認をえるために使節を派遣した。日本と中国の前例としては、邪馬台国の卑弥呼による使節派遣などがあげられる。
- ③ 周辺国の首長と中心国の王朝は対等であったが、儀礼上中心国に使者を派遣したものである。日本と中国の前例としては遣唐使などがあげられる。
- ④ 周辺国の首長は中心国の王朝の権威を認めて使節を送り、中心国の君主が周辺国の支配を承認し、貢物に対する返礼品を与える制度である。日本と中国の前例としては遣唐使などがあげられる。
- ⑤ 周辺国の首長は中心国の王朝の権威を認めたが、儀礼上のことで、品物の交換はなかった。日本と中国の前例としては遣隋使などがあげられる。

【視点 2】 次にあなたは足利将軍の外交政策を調べようとしてしました。

問 2 下線部②について、正しいものを次の①～⑤のうちから一つ選び、**2**にマークしなさい。

- ① 南北朝はまだ統一されていなかったが、足利義詮は、明への朝貢を始めた。
- ② 南北朝を統一した足利義満は、明への朝貢を始めた。
- ③ 足利義持の時代にはまだ南北朝は統一されていなかったが、明への朝貢を始めた。
- ④ 足利尊氏は幕府を開くにあたり、明への朝貢を始めた。
- ⑤ 足利義教は明への朝貢を始めたものの、応永の外寇により取りやめた。

【視点 3】 次に倭寇について調べました。

問 3 下線部③について、これを取り締まるため海賊禁止令を出したのは誰か。正しいものを次の①～⑤のうちから一つ選び、**3**にマークしなさい。

- ① 織田信長 ② 豊臣秀吉 ③ 徳川家康 ④ 徳川家光 ⑤ 徳川秀忠

【視点 4】 次にあなたはポルトガルとの交易について調べました。

問 4 下線部④について正しいものを次の①～⑤のうちから一つ選び、**4**にマークしなさい。

- ① 日本の輸入品は生糸・金属器・陶磁器などの中国物産が主であり、日本の最大の輸出品は金であった。
- ② 日本の輸入品は木綿・絹織物・陶磁器などの中国物産が主であり、日本の最大の輸出品は金であった。
- ③ 日本の輸入品は生糸・絹織物・陶磁器などの中国物産が主であり、日本の最大の輸出品は銅であった。
- ④ 日本の輸入品は金・木綿・陶磁器などの中国物産が主であり、日本の最大の輸出品は銀であった。
- ⑤ 日本の輸入品は、生糸・絹織物・陶磁器などの中国物産が主であり、日本の最大の輸出品は銀であった。

大問2 あなたはイギリス産業革命が世界におよぼした経済的な影響について、【視点1・2】の手順で調べています。以下の文章を読み、問5～9に答えなさい。

17～18世紀のヨーロッパでは重商主義政策のもとで海外との交易が拡大したが、19世紀には産業革命が重商主義体制を崩壊させ、ヨーロッパ経済の主役は工業へとうつった。産業革命は18世紀末のイギリスで①さまざまな技術革新が生まれたことが発端となり、人々の生活を大きく変えた。また、イギリスで始まった産業革命は世界中に大きな影響を及ぼした。産業革命を経て②機械工業化が経済の主役となる過程を工業化と呼ぶが、工業化は経済のみならず、③イギリスの社会全体にも大きな影響を及ぼした。また、④工業化以降のヨーロッパやアメリカは軍事面で圧倒的優位となり、加えて蒸気機関の利用が普及することでこれをさらに⑤交通や通信面にも転用しようとする動きが生まれた。

【視点1】 下の表は下線部①の「さまざまな技術革新」を一覧にしたものです。

表 綿織物・交通手段におけるおもな技術革新

| 発明内容 | 種別 | 動力源 | 発明年 |
|--------------------------|-------|--------------------|--------|
| ニューコメン蒸気機関 | 動力装置 | 石炭 | 18世紀初め |
| コークス製鉄法 | 精錬 | 石炭 | 1709年 |
| 飛び杼 | [B] | — | 1733年 |
| 多軸紡績機 (ジェニー紡績機) | 紡績機 | 手動 | 1764年頃 |
| [A]蒸気機関への改良・回転式蒸気機関の発明 | 動力装置 | 石炭 | 1769年 |
| 水力紡績機 | 紡績機械 | 水力、1789年に蒸気機関に連結 | 1769年 |
| ミュール紡績機 | 紡績機械 | 手動、1820年代に蒸気機関で自動化 | 1779年 |
| カートライト力織機 | 織布機 | 手動、1788年に蒸気機関に変更 | 1785年 |
| 蒸気船 | 交通手段 | 石炭・蒸気機関 | 1807年 |
| 蒸気機関車 | 交通手段 | 石炭・蒸気機関 | 1814年 |

出典：岸本美緒・鈴木淳・編著『歴史総合—近代から現代へ』

山川出版（2022年）、37ページより出題者作成。

問5 【視点1】の表について各問に答えなさい。

a) 空欄[A]に入る発明家の名前を次の①～⑤のうちから一つ選び、5にマークしなさい。

- ① アークライト ② ハーグリーブズ ③ スティーブンソン
④ ジョン＝ケイ ⑤ ワット

b) 表のうち、あなたは「飛び杼」という発明がどのようなものかわからなかったため調べたところ、技術辞典に以下のような説明を見つけました。この文章から読み取れる空欄[B]に入る発明の種別を次の①～⑤のうちから一つ選び、6にマークしなさい。

1733年に発明された、横糸をまいた杼が上下に分かれた縦糸のあいだを往復する装置で、幅広布の製造を容易にした。糸不足を引きおこし、紡績分野の発明を促した。

- ① 紡績機 ② 梳綿機 ③ 織布機 ④ 布の巻き取り装置 ⑤ 染色法

問6 【視点1】の表の内容を踏まえた下線部②の文章は、もっとも重要なものは蒸気機関の製造業への転用であったことを説明しています。

a) その理由を次の①～⑤のうちから一つ選び、7にマークしなさい。

- ① 安価で均質な製品を大量生産することが可能となり生産性が向上したから。
② 労働力が安価になったことでイギリス国内にプランテーション農業を開発することができたから。
③ 鉄鉱石と石炭の生産拡大につながったから。
④ 農作物への需要が高まったから。
⑤ 米国から大量の砂糖が供給されたから。

b) 18 世紀後半から 19 世紀初頭にかけて、実際に世界的に起きた産業革命の 2 つの影響を正しく説明した選択肢の組み合わせを次の①～⑤のうちから一つ選び、8にマークしなさい。

- A. インドはイギリスに綿工業製品を輸出するようになった。
- B. 19 世紀前半にはアジア諸国でも機械化工業が広まった。
- C. 独立後のラテンアメリカ諸国においてもイギリス製の綿製品が大量に流入した。
- D. 西ヨーロッパ諸国とアメリカ合衆国北部では自国の産業革命を奨励しつつ、外国からの輸入に対しては新たな関税をかけた。
- E. 大西洋上では三角貿易が大規模に展開するようになった。

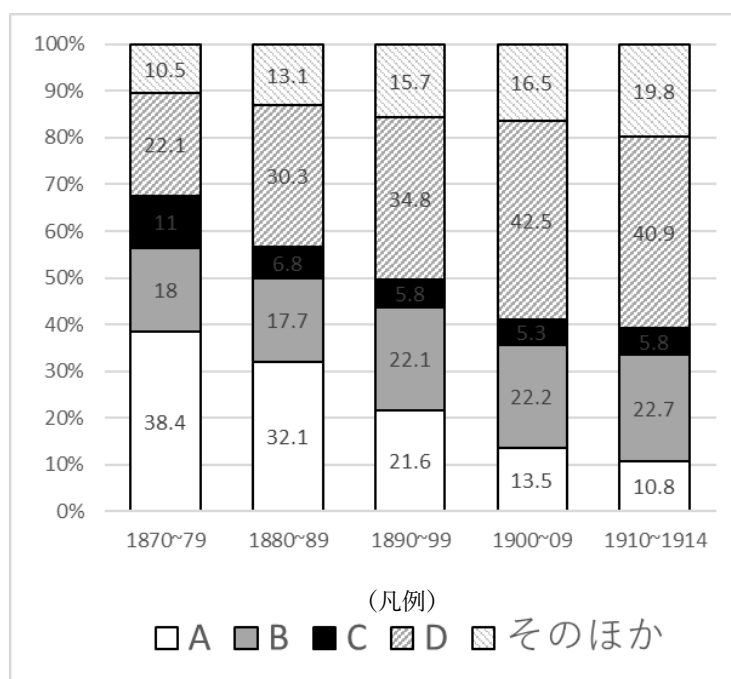
① A・B ② B・C ③ B・D ④ C・D ⑤ C・E

問7 下線部③について、産業革命がイギリス社会に与えた影響について正しいものを次の①～⑤のうちから一つ選び、9にマークしなさい。

- ① 資本家と工場労働者は平等に扱われるようになった。
- ② 工業都市では公害の発生や住宅環境の悪化が新たな問題として発生した。
- ③ イスラーム教の布教がさかんになった。
- ④ 都市部の労働者たちの居住区ではマラリアが蔓延した。
- ⑤ 私的所有権が制限されすべての財産は公有化された。

【視点 2】 次にあなたは 1870 年代以降の世界的な鋼鉄生産について調べました。
 以下は教科書で見つけたグラフです。

図 列強の鋼鉄生産の世界シェア (%)



出典：岸本美緒ほか、前掲書、(2022 年) 86 ページより作成。

問 8 【視点 2】 のグラフについて各問に答えなさい。

a) グラフから読み取れる各国の工業生産力の順位の背景として、あなたは 1860 年代以降の各国の工業化や戦争状況をメモにしました。下の A~D の内容はグラフ下部にある A~D の凡例と対応しています。このなかで B もしくは D がどの国かを正しく述べた選択肢を次の①~⑤のうちから一つ選び、10にマークしなさい。

- A. 「ロコモーション号」の発明後、鉄道敷設と車両開発の双方でもっとも早く蒸気機関車を輸出し、植民地インドやアフリカ大陸などに鉄道線路を広めた。
- B. 日本陸軍が旅順攻略で用いた「クルップ砲」などの大砲のほか、炭鉱・製鉄・造船業を含む巨大な鉄鋼軍需コンツェルンとなったクルップ社があった。
- C. この国出身の技師レセップスが地中海と紅海を結ぶスエズ運河を開発した後、1875 年までこの運河株式会社の株式をエジプト政府と共同所有していた。
- D. 大陸横断鉄道を敷設し、内戦をへて北部の経済を急速に発展させた工業国であり、1914 年にはパナマ運河を開通させた。

- ① B はアメリカ合衆国のことである。
- ② B は第三共和政フランスのことである。
- ③ D はプロイセン帝国のことである。
- ④ D はアメリカ合衆国のことである。
- ⑤ D は第三共和政フランスのことである。

b) 鋼鉄生産の増大が軍事面に与えた影響として考えられうる仮説の組み合わせを、次の①～⑤のうちから一つ選び、1 1にマークしなさい。

- A. 鉄砲が新たな武器として戦争で使われるようになった。
- B. アメリカでは戦場に機関銃や装甲船、ライフルなどの最新兵器が投入された。
- C. 近代兵器をはじめて駆使した戦争である、七年戦争が勃発した。
- D. アジアやアフリカに対して植民地化を進める遠因となった。

- ① A・B ② B・C ③ A・C ④ B・D ⑤ A・D

問9. 下線部⑤「交通や通信面にも転用」された結果、19世紀半ばまでにイギリスをはじめとして世界に起きた変化として正しい選択肢3つの組み合わせを、次の①～⑤のうちから一つ選び、1 2にマークしなさい。

- A. 輸送や速やかな情報伝達が促されたことから、世界の一体化はあっという間に進んだ。
- B. アメリカ合衆国では大陸横断電信網が完成した。
- C. 蒸気鉄道の技術や車両はアメリカからイギリスに輸入された。
- D. ロンドンでは地下鉄が開通した。
- E. イギリスとフランスの間に海底トンネルが開通した。

- ① A・B・D ② A・C・D ③ B・C・E ④ A・D・E
- ⑤ B・C・D

大問3 あなたは日露戦争前後の日本と東アジアの情勢について調べています。【視点1～2】の手順に従って問10～15に答えなさい。

【視点1】 教科書にはこのような文章がありました。

ロシアは義和団戦争のあと、中国東北部（満州）に軍隊をとどめた。日本は満州をロシアの勢力圏とするかわりに、韓国を日本の勢力圏として認めさせる交渉を試みるが、ロシアはこれに応じなかった。このような情勢のなか、1902（明治35）年に〔 A 〕が結ばれた。国内の主戦論の高まりを背景に、1904（明治37）年2月、日本軍が〔 B 〕港のロシア艦隊を攻撃し、日露戦争が始まった。日本の戦費は増税のほか、①外債を発行して調達されたが、弾薬や兵士の補給の困難から、日本軍は満州の南半分を占領する以上の作戦をおこなうことは難しかった。一方でロシアは海軍の壊滅で日本本土に脅威を与えられなくなったうえに、②1905年革命がおこったため戦争継続が困難となった。

両国はアメリカ大統領セオドア＝ローズヴェルトの仲介を受け入れ、1905年（明治38）年に小村寿太郎とウィットによって〔 C 〕がまとめられた。③韓国からロシアの影響力を排除するという日本の戦争目的は達成されたが、賠償金が得られなかったことなどから、増税や人的犠牲に釣りあう成果ではないと受け止めた人々も多く、講和条約調印の日には④講和反対の暴動がおきた。

問10 【視点1】の文中の空欄にあてはまる用語について、各問に答えなさい。

a) 文中の空欄〔 A 〕に入る語句で適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、13にマークしなさい。

- ① 日米和親条約 ② 北京議定書 ③ 日英同盟協約（日英同盟）
④ 日清修好条規 ⑤ 日独伊三国同盟

b) 文中の空欄〔 B 〕に入る語句で適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、14にマークしなさい。

- ① 威海衛 ② 大連 ③ 青島 ④ 天津 ⑤ 旅順

問 1 1 【視点 1】の下線部①について、この時の外債発行による戦費調達に携わった日本銀行副総裁で、のちに日銀総裁と大蔵相の経歴を経て原敬暗殺後の 1921 年に首相となった人物の名前と、そのときに外債発行を行った国の正しい組み合わせを、次の①～⑤のうちから一つ選び、**1 5**にマークしなさい。

- ① 小村寿太郎・アメリカ ② 加藤高明・イギリス ③ 犬養毅・日本
④ 幣原喜重郎・アメリカ ⑤ 高橋是清・イギリス

問 1 2 【視点 1】の下線部②の 1905 年革命のきっかけになった事件を、次の①～⑤のうちから一つ選び、**1 6**にマークしなさい。

- ① ドレフュス事件 ② 血の日曜日事件 ③ ファショダ事件
④ シーメンス事件 ⑤ 西安事件

問 1 3 【視点 1】の文中の空欄 [C]に入る条約名で適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、**1 7**にマークしなさい。

- ① 北京条約 ② ポーツマス条約 ③ ロカルノ条約
④ ヴェルサイユ条約 ⑤ 南京条約

【視点 2】 下線部③について、あなたは日露戦争で日本が得たものはなんであったのかを考察します。

問 1 4 以下の参考資料が示す内容について、各問に答えなさい。

a) 教科書の説明によると、「1905 年に、日本政府はイギリス政府との間に攻守同盟を結び、その対象地域を東アジアとインドに設定して、同盟国のいずれかが攻撃されたら連合して対応することした」とあります。この攻守同盟の名前を次の①～⑤のうちから一つ選び、**1 8**にマークしなさい。

- ① 日英同盟の改定（第二次日英同盟協約） ② ポーツマス条約
③ 桂・タフト協定 ④ 三国同盟 ⑤ 門戸開放

b) もう一つの動きとして、あなたは日露戦争前後の鉄道網の変化を見ることにしました。下は日露戦争前の 1903 年にロシアによって敷設された鉄道ですが、日露戦争後には地図のうち、ロシアから引き継いだ奉天から旅順までの鉄道や炭鉱などを保有する鉄道会社を経営し始めたことにあなたは気づきます。この鉄道会社の名前を、次の①～⑤のうちから一つ選び、19にマークしなさい。

図 1903 年の極東における鉄道網の敷設状況



出典：『山川歴史総合用語解説』（2022 年）119 ページ。

- ① 東清鉄道 ② シベリア鉄道 ③ 樺太鉄道 ④ 南満州鉄道
⑤ 華北交通

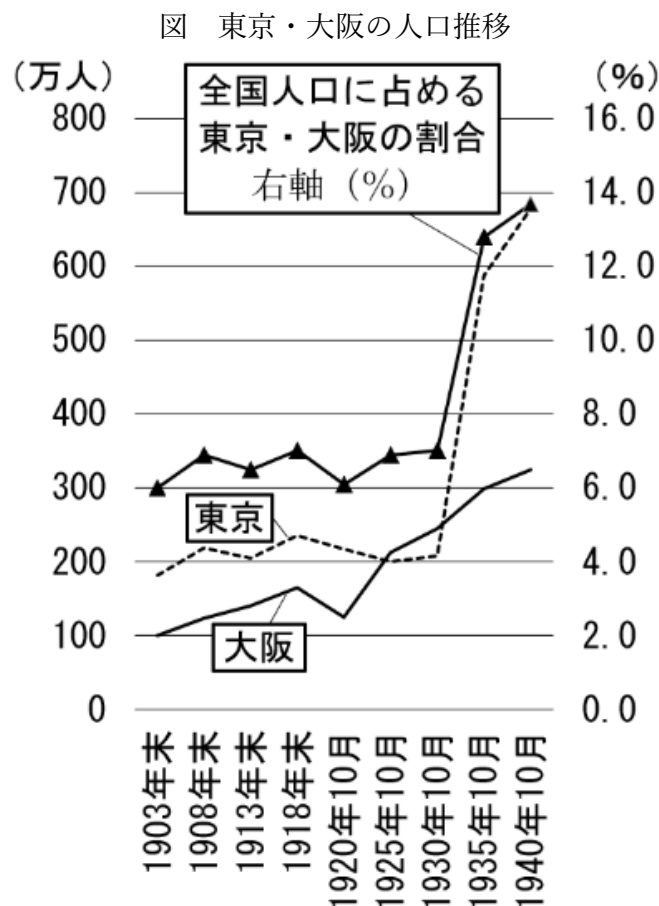
問 15 下線部④の事件名を次の①～⑤のうちから一つ選び、20にマークしなさい。

- ① 生麦事件 ② 大逆事件 ③ ハーグ密使事件 ④ 大津事件
⑤ 日比谷焼打ち事件

大問4 あなたは人口と食料というテーマを選び、近代の人口はどのように増加し、増加した人口への食料供給はいかになされたのかを発表することになりました。「20世紀以降、世界の諸地域では工業化や都市化の進展とともに人口が大きく増加した。このような人口増加の背景には安定した食料供給が欠かせない。工業労働人口や都市人口が増加するなかで、彼らへの食料供給はどのようになされたのだろうか」という問いについて、【視点1～5】の順に沿って、問16～20に答えなさい。

【視点1】 まずあなたは、工業化にともなう人口増加について、20世紀初頭の日本の都市人口の状況を調べました。

問16 以下のグラフ「東京・大阪の人口推移」から、読み取れることを適切に説明したものを次の①～⑤のうちから一つ選び、21にマークしなさい。



出典：岸本美緒ほか、前掲書（2022年）、83ページから作成。

- ① 1925 年に大阪で、1935 年に東京で人口が激増したのは市域拡張の影響である。
- ② 第一次世界大戦を契機に、日本では造船業をはじめ、工業生産額が増大した。工場が林立した東京には各地から人々が流入し、その人口は常に大阪を上回った。
- ③ 1923 年 9 月 1 日に関東大震災が発生し東京の人口は急減したものの、大量の震災手形の発行により早期復興を遂げ、1925 年には震災前の人口を大きく上回った。
- ④ 都市には映画館やデパートなど、あらゆる階層の人々が気軽に楽しめる施設が増え、それがまた都市に人々を引きつけた。1935 年の東京・大阪の人口は、合計すると約 650 万人であり、一大都市であったことがわかる。
- ⑤ 全国人口に占める東京・大阪の割合は、1930 年まで 5.0%未満であったが、1935 年に 10.0%を超え、急速な都市化の進展が読み取れる。

【視点 2】 つぎにあなたは、都市人口が増加するなかで、大衆や民衆と称される人々の生活や、彼らを担い手とする大衆文化や消費文化について調べました。

問 17 アメリカと日本を比較したときに、その大衆文化と消費文化について適切に説明したものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、22にマークしなさい。

- ① アメリカでは階級文化があり、階層ごとに享受する文化のジャンルが異なった。そこで 1920 年代に少数の富裕層のあいだで映画やスポーツ観戦が人気を博した。
- ② 1914 年に自動車会社の経営者であるフォードが、T 型フォードの生産工場にベルトコンベアを導入し、短時間での大量生産と価格の低下をもたらした。これにより、アメリカはいち早くモータリゼーションを迎えた。
- ③ 1925 年に東京でテレビの本放送が開始され、1926 年に準国営の日本放送協会 (NHK) に統合された。ただし、受信機が高価だったこともあり、普及率が 50%に達したのは太平洋戦争期であった。
- ④ 1920 年代以降、都市部の青少年層を中心に無声映画であるトーキー映画が人気を集めた。1930 年代には活動弁士によって映画の画面説明がなされる発声映画が初上映され、広く普及した。
- ⑤ 1926 年には改造社が『現代日本文学全集』を発刊し、1 冊 1 銭で毎月 1 冊配本する全集本である銭本ブームなど、高学歴者層向けの大量出版が始まった。

【視点 3】 世界的に参政権の拡大や女性の地位向上に向けた動きが強まるなかで、日本では 1910 年代にデモクラシー運動が本格的に始まったことがわかります。

問 1 8 日本におけるデモクラシー（大正デモクラシー）について適切に説明したものを次の①～⑤のうちから一つ選び、2 3にマークしなさい。

- ① 立憲政友会の尾崎行雄と、立憲国民党の犬養毅らは「閥族打破・憲政擁護」を掲げ、西園寺公望内閣の倒閣運動を展開した。これを第一次護憲運動という。
- ② 第一次護憲運動への対抗として、元老政治からの脱却を目指して立憲同志会の創立が宣言された。しかし、護憲運動に賛同する民衆が議事堂周辺に集まり、一部で暴動が発生したことから内閣は退陣した。この政権交代をメーデーという。
- ③ 第一次山本権兵衛内閣は、軍部大臣現役武官制の現役規定を削除するなど、デモクラシーの拡大につとめたものの、1914 年に陸軍の汚職事件が発覚し、退陣することになった。この事件をハーグ密使事件という。
- ④ 吉野作造は、1916 年に『中央公論』で論文を発表し、政治の目的は民衆の福利にあり、政策決定は民衆の意向によるとして、政党内閣制と普通選挙の実現を説いた。このような思想を民本主義という。
- ⑤ 1920 年に、市川房枝と平塚らいてうらにより、女性の政治参加を求める全国水平社が結成され、1922 年に女性の政談演説会への参加が認められた。

(問題は次のページに続きます)

【視点4】 さらに、あなたは、デモクラシー運動のなかで、以下の文のような米価の引下げを要求する米騒動という暴動が全国的に展開されたことに注目しました。

日本は、国際的地位の向上や漁業などの経済的権益の拡大をもくろんで、連合国の【 A 】の呼びかけに応じた。【 A 】は1918年8月に始まり、アメリカ・イギリス・フランスなど連合国各国が派遣した軍隊が計2万人余りだったのに対し、日本はアメリカと合意した兵力量の10倍近い7万人余りの軍隊を派遣した。このとき、日本国内では【 A 】にともなう米の買い占めのため、米が品薄になり、価格も暴騰し、人々の生活が苦しくなった。こうした状況のなか、富山県の主婦たちが米屋におしかけたのをきっかけとして、全国各地で米価引下げを要求する暴動が発生した。これを米騒動という。寺内正毅内閣は軍隊や警察を導入して米騒動を鎮圧したが、混乱の責任をとって総辞職し、次期首相に立憲政友会の【 B 】が指名された。【 B 】の内閣は初の本格的な政党内閣であった。

問19 米騒動について説明した上の文で、【 A 】と【 B 】にあてはまるものとも適切な組み合わせを次の①～⑤のうちから一つ選び、24にマークしなさい。

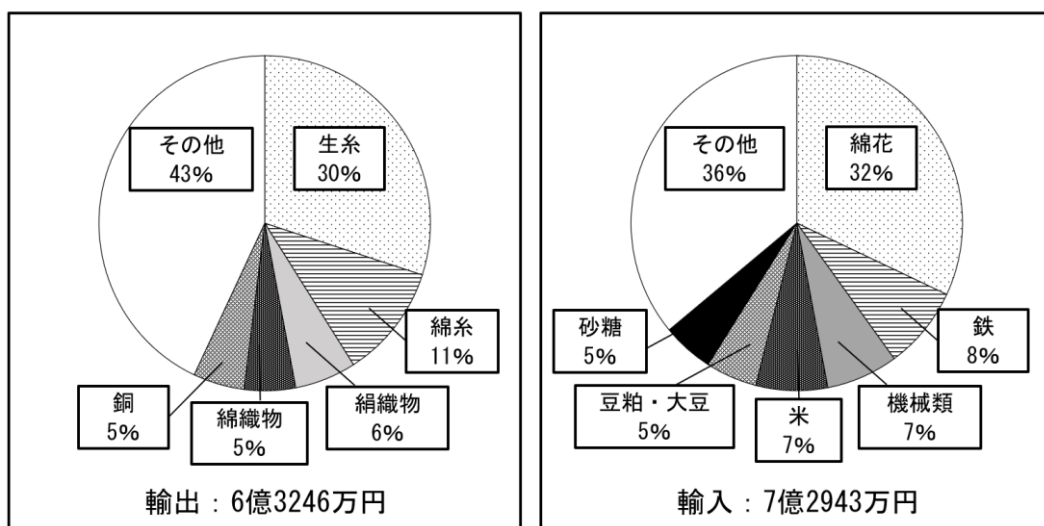
- ① A：台湾出兵 B：原敬 ② A：台湾出兵 B：高橋是清
③ A：シベリア出兵 B：原敬 ④ A：シベリア出兵 B：高橋是清
⑤ A：シベリア出兵 B：清浦奎吾

(問題は次のページに続きます)

【視点 5】 最後にはあなたは 20 世紀初頭の日本の貿易内容から、日本の工業化と農産物の生産・供給の状況を調べてみようと考えました。

問 2 0 以下のグラフ「1913 年の日本の貿易」から読み取れることを適切に説明したものを次の①～⑤のうちから一つ選び、2 5 にマークしなさい。

図 1913 年の日本の貿易



出典：岸本美緒ほか、前掲書（2022 年）、83 ページから作成。

- ① 日本の製糸業は機械と綿花を輸入し、生産された生糸の輸出額は総輸出額の 11% 程度であったため、製糸業の発展は国際収支の赤字をもたらした。
- ② 紡績業では座繰製糸が使用されていたが、20 世紀に入ると工場製の器械製糸が全国に広まった。綿糸は主にアメリカに輸出され、その額は全体の 5% に相当した。
- ③ 肥料の使用や、収量の多い品種の導入、灌漑・排水の改良が進むなかで米の生産量は増加したが、人口の増加により 19 世紀末から日本は米の輸入国に転じ、1913 年には機械類と同程度の輸入額となっている。
- ④ 1880 年代から科学肥料が導入され、大豆粕等の肥料が投入されるようになった。肥料用に国産化された大豆や豆粕は東アジアでの需要が高く、全体の 5% 相当が輸出されていた。
- ⑤ 1895 年に台湾を植民地としてから、日本における砂糖の需要は急増し、1913 年には米を上回る金額の砂糖が輸入されていることが読み取れる。

（歴史総合の問題は以上です）